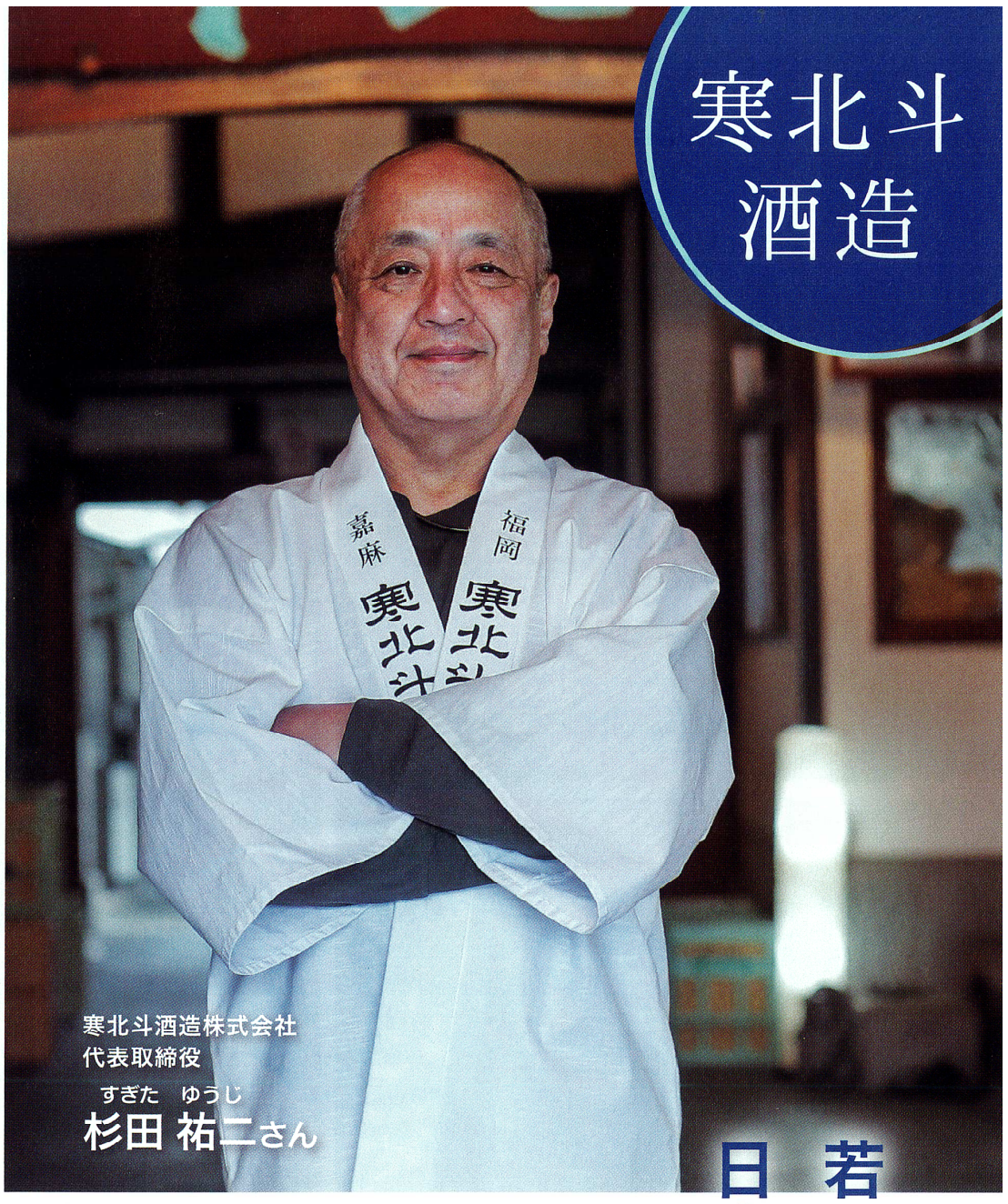
寒北斗酒造



寒北斗酒造株式会社
代表取締役
杉田 祐二（すぎた ゆうじ）さん

日本酒を知る機会に 若い方や海外の方が

江戸時代の1729年に誕生し、今年創業296年を迎える、嘉麻市内で最も古い酒造「寒北斗酒造」。もとは「玉の井酒造」を名乗っていましたが、2011年に同酒造の看板商品となった「寒北斗」を用いた社名に変更しました。昨年の福岡県酒類鑑評会では、同酒造の全ての銘柄で賞を獲得。なかでも「寒北斗 本醸造・玉の井 純米」は、福岡県知事賞を受賞しました。福岡県の代表的な日本酒として認知され、多くの飲食店で提供されている代表酒の「寒北斗」。このお酒は約40年前、「福岡を代表する酒をつくってほしい」と北九州の酒販店が複数の酒蔵に相談を持ち掛けたことがキッカケで生まれました。どの蔵も難色を示すなか、当時の玉の井酒造がこれに取り組み、試行錯誤の末に食に合う食中酒として誕生したといいます。そして現在、寒北斗酒造の代表を務めるのは、酒類販売業から酒造りの世界に転身した杉田祐二さんです。38歳という遅い年齢から酒造りを始め、最初は環境に馴染むのに苦労したそうですが、後に後継者がいなくなった同酒造を継ぎました。

「福岡県酒類品評会で、私たちのお酒が全ての部門で受賞できたことは嬉しかったですね。また、『伝統的な酒造り』がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、多くの方に日本酒を知っていただくキッカケになっていると思います。国内では少子化や、日本酒以外の酒類の飲酒が増えていますが、あらためて若い方にも『日本にはこんなお酒があるのか』と知ってもらい、日本酒に価値を感じていただけると嬉しいですね。消費量はもちろん、酒造りの後継者が増えることにも期待したいです。また、ユネスコ無形文化遺産には日本の『和食』も登録されているので、『伝統的な酒造り』も世界に知ってもらういい機会になればと考えています」と杉田さん。

実際に嘉麻市内の酒蔵では海外の方々が訪れる機会もあり、寒北斗酒造でも歴史ある酒蔵の建物とともに日本酒の魅力を伝えているのだとか。今後は国内の若い方向けのアピールを拡大するとともに、海外への輸出にも力を入れていきたいそうです。

令和6年
福岡県酒類鑑評会
日本酒「金賞」
「福岡県知事賞」

「純米大吟醸 吟遊」「大吟醸 吟遊」「寒北斗 特別純米」
「寒北斗 本醸造」「玉の井 純米」